

# 作新学院大学／作新学院大学女子短期大学部 実地視察大学の概要

○課程認定を受けている学科等の概要

大学名	作新学院大学			設置者名	学校法人 船田教育会			
学部・学科等の名称等			認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況 (平成22年度)			
学部	学科等	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業者数	免許状取得者数		教員 就職者数
						実数	個別	
経営学部	経営学科	230人	高一種免(公民)	平成17年度	90人	5人		0人
			高一種免(情報)	平成14年度			3人	
			高一種免(商業)	平成2年度			4人	
人間文化学部	人間文化学科	120人	中一種免(国語)	平成15年度	85人	10人	8人	3人
			中一種免(英語)	平成15年度			1人	
			高一種免(国語)	平成15年度			9人	
			高一種免(英語)	平成15年度			1人	
			特支一種免 (知的障害者)	平成19年度			7人	
入学定員合計		350人	合計		175人	15人	30人	3人
大学名	作新学院大学(大学院)			設置者名	学校法人 船田教育会			
学部・学科等の名称等			認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況 (平成22年度)			
研究科	専攻等	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業者数	免許状取得者数		教員 就職者数
						実数	個別	
経営学研究科	経営学専攻	20人	高専免(商業)	平成5年度	10人	0人	0人	0人
入学定員合計		20人	合計		10人	0人	0人	0人
大学名	作新学院大学女子短期大学部			設置者名	学校法人 船田教育会			
学部・学科等の名称等			認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況 (平成22年度)			
	学科等	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業者数	免許状取得者数		教員 就職者数
						実数	個別	
	幼児教育科	100人	幼二種免	昭和42年度	86人	84人	84人	39人
入学定員合計		100人	合計		86人	84人	84人	39人
備考	・「学部・学科等の名称等」欄は、平成23年4月1日現在の名称・定員である。 ・「免許状取得者数」欄の「実数」欄は各学科等の実人数、「個別」欄は各学科等内の教職課程ごとの人数である。							



# 実地視察大学に対する講評

実地視察日：平成23年7月19日（火）

実地視察大学：作新学院大学・作新学院大学女子短期大学部

実地視察委員：山極隆委員、岸田正幸委員

## ■ 大学の教員養成に対する全般的な状況

<状況>

（大学）

- ・大学では2学部2学科、大学院では1研究科1専攻で教員養成を行っている。

（短期大学部）

- ・1学科で教員養成を行っている。

<講評>

- ・教員養成に関する教育課程、教員組織等について、教職課程認定基準等と照らし合わせ、改善が求められる点があるため、早急に是正し、文部科学省に報告すること。
- ・全学的組織における教員養成の取組み、平成18年の中教審の答申にある理念の体现、カリキュラムの整備を通じてきめ細かい教職課程の運営に努めていただきたい。

## ■ 教員養成に対する理念、設置の趣旨等の状況

<状況>

（短期大学部）

- ・世の中の変化に対応した新しい知識、考え方を身につけた「作新民」を送り出すという建学の精神のもと、「自学・自習、自主・自律」を教育理念として、自ら学び、自主的に自らを律して行動できる人材の育成を教員養成に対する理念としている。

（大学）

- ・専門科目にかかわる深い理解を踏まえた授業、こどもや青年の発達の現状を理解し、共感をもって指導に当たることのできる教員の養成を理念としている。

<講評>

- ・教員養成に対する理念はあるが、それが明確化・具体化されているとは言い難い。教職課程に対する全学的な組織を構築するとともに、教育課程や教員組織がより一層充実したものとなるように努めること。

## ■ 教育課程（教職に関する科目等）、履修方法及びシラバスの状況

### <講評>

- ・教職課程における「教科に関する科目」の内容として相応しくないとされる科目について、授業内容、計画を再考の上見直すこと。
- ・科目区分の半数を超えて学部共通科目等が当てられている学科について、課程認定基準を満たすよう修正すること。
- ・同一名称の科目については、教員によって大幅に内容が異なることは望ましくないため、教員間で調整して同じ内容に近づけること。
- ・科目の配置年次について、「保育者論」など教職課程の早い時期に履修されることが期待される科目が遅い年次に開設されているものについては、履修モデルを再考の上見直すこと。
- ・教育職員免許法施行規則に定める含むことが必要とされる事項を含んでいることが確認出来ない科目について、授業計画を再考の上、含むべき内容が確認出来るようシラバス上に明記すること。

## ■ 教育実習の取組状況

### <状況>

- ・幼稚園については、県内幼稚園との協力により、実習校を確保している。中学校及び高等学校の教職課程については、出身校による母校実習が基本となっている。
- ・大学担当者による実習校への巡回指導を行い、研究授業の参観等を実施している。

### <講評>

- ・教育実習の実施にあたっては、課程認定大学は、教育実習の全般にわたり、学校や教育委員会と連携しながら、責任を持って指導に当たることが求められる。
- ・大学による教育実習指導体制や評価の客観性の観点から、可能な限り大学が所在する近隣において実習先を確保することが望ましいが、学生が出身地の学校への就職を希望する等により、遠隔地における教育実習を行う場合においても、大学が、実習先の学校と連携し教育実習に関わる体制を構築するとともに、公正な評価となるように努めること。
- ・系列法人の中学校及び高等学校での実習も確保できるよう努めること。

## ■ 学校現場体験・学校ボランティア活動などの取組状況

### <状況>

（短期大学部）

- ・自主的な学外活動を奨励しており、実習後に幼稚園現場での様々な行事に参加する者が多い。
- ・幼稚園からの要請で、サマースクールや保育アルバイト等を通じた現場体験が実施されている。

(大学)

- ・ 専門教育科目として、「キャップストーン・コース」が配置され、小学校及び中学校における適応支援教室のボランティアに参加している。
- ・ 栃木県教育委員会の事業として実施されている「学生支援員」制度において、学校ボランティアへの参加指導を行っている。

## ■ 教職指導及びその指導体制の状況

<状況>

(短期大学部)

- ・ 入学後のオリエンテーション時から、繰り返し指導を行っている。
- ・ 教務委員会においても重点的な指導内容と位置づけ、全教員一丸となって履修指導、履修相談に対応している。

(大学)

- ・ 年度当初のガイダンス時に、教職課程概要の説明を実施しており、学部別に教職課程委員による個別的対応も実施している。
- ・ 教職課程履修者名簿を作成し、教職課程委員会が履修状況、性格特性等を把握し、指導に当たっている。
- ・ 4年次には教育実習事前事後指導の一環として「先輩講師の講話会」を毎年開催し、3年次以下の教職課程履修者への参加を呼びかけている。

<講評>

- ・ 教職課程に対する全学的な組織を構築の上、組織的な教職指導・履修指導及びキャリア教育が実施されるよう努めること。
- ・ 教職課程室や幼児教育科実習センターが、学生の集まる場としての機能しか果たせていない。専門の相談員の配置を検討するなど、大学として積極性、主体性を持ち、教員としての最低限の資質能力が育成されるような指導体制を整備いただきたい。
- ・ 短大における幼稚園教員希望者への指導体制は比較的充実していることから、学部での中学校及び高等学校の教員免許希望者における指導体制も同様に充実させ、これらが一体化した指導体制が行われることを期待する。

## ■ 教員養成カリキュラム委員会などの全学的組織の状況

<状況>

(短期大学部)

- ・ 実習委員会において、学内での連絡調整を実施している。学外に対する組織は特に無い。

(大学)

- ・ 教職課程委員会において学科及び学外の関係機関と連絡調整を実施している。

## ■ 施設・設備（図書等を含む。）の状況

<講評>

- ・教職課程室や幼児教育科実習センターについて、設備として心許なく感じられる。部屋のサイズや配置の見直しを図るとともに、書籍や掲示情報の充実を図ってほしい。

## ■ その他

- ・カリキュラム変更の状況が、学内できちんと整理されていないように見受けられ、そういった状況が授業科目名称の不一致、授業配当年次の未整理にあらわれており、教職課程についてつぎはぎしている印象を受けるので、今一度、見直すこと。